

光のあたるほうへ

寛祐

「光のあるほうへ」

鈴木幹也（優柔不断、なんとなく生きてきたし、きっとこれからも）

関口太一（幹也が部屋で見つけた日記の持ち主で、前に部屋を使っていた人物。ちょうど一ヶ月前に

バイトをやっていた。陽キャ、地方出身、なんとなく都会に憧れ上京）

所長さん（温厚、いい人、工場を仕切っている一番偉い人）

寮母さん（人情味に溢れていそうな、面倒見のいい人）

父 鈴木昇（幹也の父、堅実、計画性、真面目）

母 鈴木昌美（幹也の母、教育熱心、世間体大事、ご近所さんの目、無難・安定路線）

兄 鈴木文俊（幹也の兄、理想を持った現実主義者、エリート、努力第一、夢の為ならエンヤコラ）

妹 鈴木文美（幹也の妹、教育熱心、世間体大事、ご近所さんの目、無難・安定路線）

姉 鈴木文子（幹也の姉、理想を持った現実主義者、エリート、努力第一、夢の為ならエンヤコラ）

S M L ト書き  
E E · 照明  
· · · B G M 等  
· · 效果音等

幕が上がっていく。

舞台上は真っ暗で、その中に2人（幹也・関口）が立っている。

2人の周りには4つの箱（以下BB）が置いてある。

S E（冒頭）

幕が上がっていく途中から、2人に纏わりつくように周りからの雑音（色んな人の声）が聞こえてくる。

声の途中から照明が入る。

L（シリエット）

声『結局は学歴だよ。上位大学を出て大手に就職しないと。中小なんて負け犬だぞ。』

声『なんでこんなことも出来ないんだ。いつまで掛かんだよ。ホント使えないな。お前なんて消えちまえ。』

声『凄いじゃない、やれば出来るのよ。期待してるわよ。立派な人になつてね。』

声『もつとちゃんと考えろよ。バカ。周りを見ろ周りを、頭悪すぎでしょ。』

声『考えすぎなんだよ、まずはやつてみなきや何も始まんないだろ。』

声『適当過ぎ・・・。』

声『お前は悩みなさそうでうらやましいよ。』

声『空気読めよ、空気。』

L（薄く中央サス）

照明の中に関口・幹也が立っている。

色んな人の声は重なりながら2人を包み込み、次第に大きくなつていく。

わかっていることを繰り返し言われること。言わせてしまつている自分の現状。

どうしても抜け出せない自分の弱さ。

周囲の声に侵されて、2人の顔からは一切の感情が消えていく。

関口 7月21日。

幹也 8月21日。

関口 オレは考えることを止めた・・・。

幹也 僕は考えることを止め（た・・・）

幹也 あ～～～～～～～～～～～～～～～～～～

幹也 あ～～～～～～～～～～～～～～～～～

幹也 あ～～～～～～～～～～～～～～～～

幹也 あ～～～～～～～～～～～～～～

2人は絶叫しながら、発狂する。

2人の叫び声が重なりながら、舞台上は暗転する。

L（暗転）

2人退場する。

1場 現代 東京駅の新幹線のホーム 7月31日 （0日目（移動日））

S E（新幹線のホーム）

L（新幹線のホーム）

幹也、舞台下手から登場する。

幹也是リゾートバイトに向かうため、大きな鞄を持って新幹線のホームにやつってきた。

昔から乗り物好きで、特に新幹線が憧れだつた幹也だが、都会育ちで両親とともに実家が首都圏だったこともあり、ここまで新幹線に乗ったことがなかった。今回のリゾートバイトの目的の一つは新幹線に乘れる（交通費は先方持ち）という点であり、幹也の中では大きな理由になつていた。

初めて歩く新幹線のホームは何もかもが新鮮であり、全てが輝いて見えた。

見えるもの、聞こえるもの全てを逃したくないと思う気持ちから、幹也の足は一向に進まず、周りを行き交う人々とのスピードの差があまりにもはつきりとしている。

幹也是ついに念願の新幹線と対面する。

幹也 わー。凄つ。え、凄つ。生新幹線・。

幹也、憧れの新幹線との対面を果たし、感動に言葉も出ない。

憧れだった新幹線は、幹也が思っていた以上の衝撃を与えた。ただただカッコよかつた。

幹也は荷物を下ろし、スマホで新幹線を撮つたり、一緒に自撮りをしたり、ホームの安全ライン越えて、線路を覗きに行つたりする。見るものすべてが憧れの新幹線のホーム。目がキラキラ、顔はニタニタ、すぐ楽しんでいる。

幹也 #3号車12のB #7・45発 #7月31日 #人生初の新幹線を待つて

#テレシヨン上がりっぱなし

幹也、書き込みが終わるとスマホをポケットにしまう。

幹也 はあ。生きててよかつた。新幹線・・・

L (語りっぽい雰囲気)

M E (テンポ感のあるBGM)

幹也、客席に向かつて自己紹介を語り始める。

幹也、語りの途中からBBを移動させて、ファミレスの椅子の配置に転換する。

幹也 幹也、鈴木幹也。僕の名前。新幹線の幹の字に也（なる）で幹也。しつかりと地面に根を張り

自らの力で立つ、そういう意味があるらしいのだけど、子供の頃の僕は、大好きな新幹線と同じ字だつてことが只々嬉しかった。子供の頃からずっと憧れだった新幹線は、じいちゃんもばあちゃんも、親戚みんな東京に住んでる、東京生まれで都会育ちの僕には乗る機会がなく、今日という今まで妄想の中で乗る夢の乗り物だった。

L (ファミレス)

家族（父、母）入つて来て、BBに座る。（机はない）

幹也、まだ立つている。

幹也、注文はまだ決まらないのか？

母 文俊が戻つてくるまでには決めなさいよ。

幹也 わかつてるよ。

幹也 ミラノ風ドリア、ハンバーグステーキ、若鶏のグリル、タラコソースシシリーウ風、ミラノ風ドリア、ハンバーグステーキ、若鶏のグリル、タラコソースシシリーウ風・・・。

兄 兄、入つてくる。

兄 もう注文した？（幹也を見て）まだ悩んでんのか？  
幹也 いいだろ。

幹也、家族を一人ずつ紹介する。紹介された人は立ち、台詞を言つて座る。

幹也 そしてこれがうちの家族。厳格な父。  
父 アイラブ日経新聞&イタリアンハンバーグ。

幹也 教育熱心な母。

母 歯磨きは毎日朝日晚、私はキヤベツのペペロンチーノ。

幹也 出来のいい兄。

男 男は黙つて、リブステーキ＆ラージライス。

そして僕、極平凡な家族の中、何不自由なく、平々凡々と暮らしてきた。いつも家族で行くのはサイゼリヤ。そんな普通の家庭環境で、普通に勉強して、普通の高校に入り、そこでもやつぱり普通に勉強して、普通に大学も決めた。

そして今、その普通の大学に普通に通っている。僕はそんな普通な普通な人間だ。

将来の夢は漠然と機械関係つて思つてているけど、それも・  
(立ち上がって幹也の横へ出てくる) どうだ幹也、すごいだろ? この恐竜、全部針金とネジで

出来てんだぞ。オレが作つたんだ。(小学校時代の兄として)  
うわー、兄ちゃんすげえ。(兄、B Bへ戻る) つていう有りがちなきつかけで、

(立ち上がって幹也の横へ出てくる) 手に職はつけておいたほうがいいぞ。

父 幹也 母 幹也 兄 幹也

(父、B Bへ戻る) つていう父の意見と、  
(立ち上がって幹也の横へ出てくる) 就職の時に困らないようにしなさいよ。

自分の夢なんじやないかつて決めつけてしまつていてる感じはある。  
だからといって、押し付けられたとは思つてないし、やりたくないわけではないし、

何よりも他にやりたいことがあるわけでもないので、これでいいんじやないかと思つていてる。  
今までの人生を考えても、自分で何かを決断したなつて思えることはほとんどなく、

周りに言われるがままになんとなく流されて決断してきた気がする。

兄

兄のよう声高らかに、自分の夢を言える、そんな人がたまにいるが・  
(その場で立つて、家族に宣言する) オレ、友達と起業する。

今しか出来ないことをやつておきたいんだ。簡単じやないのはわかつてること、

こういう時代だからこそ、逆にチャンスだと思うんだ。困つてると助けてたい。

新しいビジネスモデルをオレが作りたいんだ。迷惑かけるかもしれないけど、決めたんだ。

応援して欲しい。(座る)

幹也

あんなのはごく稀であつて、世の中の大体の人は流されながら生きてると思う。

だから、自分が変だとも思わないし、この生き方が悪いとも思わない。(席に戻る)

幹也

幹也、そろそろ就活だろ? もう企業選びは始めたのか?

兄

うーん、まあボチボチと。

随分のんびりしてんだな。オレは3年の夏には動き出してたし、普通に就職した友達も3年の

夏休みには情報くらいは集めてたぞ。ただでさえ不透明な状況なんだ、市場の調査くらいは

早めにしとかないとじやないのか。

幹也

いくつか、資料は集めてるよ。

しようと思つてたけど、働くうと思つてた所が閉店したりしちやつて出来なかつたの。

じゃあ他のバイト先探せばいいだろ。どこでもいいわけじやないんだよ。ようやく見つけた所だつたの。

幹也

別にいいだろ、みんなこんなもんだよ。

みんなつて誰だ? お前の言うみんなつて、お前の知つてる奴らのことだけだろ?

自分に都合のいい奴だけ見て、みんなつて言つてるだけだろ?

いい加減もつと自分をしつかり持てつて、夢のためにとかないのかよ。

別に。

バイトはずつと探してたんだけどね。

それはそうでしょ。

まあきちんと単位は取れてるみたいだし、やることはちゃんとやつてるさ。

二人とも幹也に甘過ぎるでしょ。

そもそも幹也は文俊とは違うんだ。幹也なりには考へてるだろ。なあ幹也。

ほら。

幹也、立ち上がる。

幹也

本当の僕を一番わかつてるのは兄な氣もするが・・・。出来のいい兄は自分にとつて眩しすぎて、  
正直苦手だ。将来のことを何も考へてないわけじやないけど、ここまで流れで生きてきたし、  
これからもきっと流されて生きていくんだろうなっていう漠然としたイメージがあるから、

あまり深く考えたこともないし、あまり焦つてもいい。なんとかなるんだろうと思つてゐる。  
どうしても叶えたいものつて、そういうえば子供の頃からあまりなかつた気がする。  
唯一あるとすれば・

L（新幹線のホーム）

S E（発車ベル）

M E（新幹線のホーム）

新幹線の発車のアナウンスとベルが流れ、シーンは再び新幹線のホームに切り替わる。  
幹也は一人舞台前方（新幹線のホーム）へ移動し、家族はその間に退場する。

幹也 唯一あるとすれば新幹線。子供の頃からずっと憧れだつた新幹線。

大人になる前には絶対に乗つてやるんだって思つてたけど、結局今日まで乗る機会はなかつた。  
どうしても乗りたいつて強く主張すれば乗らせてくれたかもしれないけど、今まで乗れてないつて  
ことは多分、そういうことなんだと思う。だから、地方出身の友達は都会生まれが羨ましいって  
言うけど、子供の頃から夏休みの里帰りの経験すらない僕からしたら、お盆や正月の帰省の度に  
新幹線に乗れるなんて喉から手が出るほど羨ましいことで、みんなは混んでるし退屈だつて  
言うけど、それは乗り慣れた人だから言えることであつて、僕からしたらそれはアイスのふたを  
舐めずに捨てるくらいの贅沢なことだと思う。  
眩しすぎる兄のいる、鬱陶しい家から離れるため、憧れの帰省とはいかなかつたけど、  
今日ついに念願の新幹線に乗ることになった。これでね。（タウンワークを取り出す）

S E（発車ベル）

幹也、話し終ると新幹線に乗り込む。

L（暗転）

2場 宿舎 移動日 関口の日記を読みながらの回想

《関口の回想シーンと幹也が関口の日記を読む朗読とが交錯する》

M E（夜の音）

L（幹也の夜の音）

幹也、舞台下手へ、荷物を下ろす。

幹也是バイトの期間中に宿泊する部屋へ案内してもらい、荷物を降ろしたところである。

部屋は宿舎の一室で、この宿舎は実際に明日から働く工場の同じ敷地内に立つてゐる。

今日は移動日（移動だけで半日かかつた）で、実際に働くのは明日から。

そのため今日は部屋にまっすぐに案内してもらつた。

宿舎の入り口には下駄箱があり、宿舎内はスリッパで生活する。

部屋は簡素な作りで、6畳一間。古いアパートのような作りで、一部屋ごとに鍵付きの扉がついてゐる。

入り口から入ると、土間があり、そこでスリッパを脱ぐ。

宿舎には食堂があり、朝日晚の食事はそこで取るらしい。

宿舎の雰囲気は、地方にある古い民宿のような感じで、1階には自由に使つていい洗濯機が

置いてあつたり、窓が開けつ広げで風の通りが良かつたり、廊下は薄汚れたゴムのようなフローリング  
だつたり、田舎特有の開放感のような、決して綺麗ではないが、なんとなく懐かしいような雰囲気で  
ある。

サークルの合宿で泊まつた海沿いの民宿を思い起させる。

幹也 ふあ、疲れた。（窓を開ける）うわく。（星）めっちゃ綺麗♪（はしゃぐ）

やつたなあ。今日から独り暮らしだ

幹也是部屋の床に寝ころんで、あれこれ考えなければいけない現実（実家）から解放された実感が湧く。結局はただ逃げているだけだが、幹也にとつてはようやく解放されたくらいにしか思えてはいない。寝ころんだ床の視線の先に、ノート（関口の日記）を見つける。

幹也 ん？

そのノートは幹也の物ではなく、恐らく、この部屋を前に使っていた人の忘れ物だろうと想像できた。ノートのようだが、何気なく捲つてみると途中まで書いてあり、内容の雰囲気から日記だとわかった。幹也是、なんとなく数ページ捲りながら読んでしまう。

幹也

6月30日。夏の期間だけ短期のバイトをしてみる。  
マジで、自肃でバイトのシフト全部なくなつたの痛過ぎた・・・。  
はあ、シフト死ぬほど入つてた時の感覚でポチポチしてたのおわた・・・。  
大学休校で自宅警備し過ぎた。することないから仕方ない。これは仕方ない。  
お金もない。コロナで沖縄旅行中止になつたから、代わりの旅行にする。  
ついでに稼げるし、それで割り切ろう。よくぞ見つけた、オレ。#オレ、神クラス#飼育家畜の  
餌やり#住み込み#時給割高。すぐ電話する！！

L（関口の日記）

関口、舞台上手から登場。旅行鞄を持つている。

関口も幹也と同様に新幹線でリゾートバイトにやつってきた。

幹也が関口の行動が示される。

関口の日記を通して関口の生活と共に示されていく。

2人のバイト生活は、とても単調なものであり、2人のシーンは次第にシンクロしていく。

ここでは、幹也が関口の日記を読む台詞に合わせて、舞台上で関口がマイムを合わせる。

幹也が読んでいるときはマイム、関口の台詞の部分は実際に関口が喋る。

幹也

朝6時から働いて夕方5時までらしい。家畜もずっと餌食べてるわけじやないから  
実働2、3時間（笑）それで日当が10000円！！やばくない！?  
つてことで、急だけど、今日から来てつて言われたからとりあえず1ヶ月いつてみる。  
#東京駅から新幹線♪#久々の長旅#人のお金で新幹線 マジ最高だろこれ。

関口、一度舞台上手へ退場し、幹也が日記を読むのに合わせて登場、舞台中央へ移動する。

幹也

やつと現地に到着。新幹線とローカルな電車と乗り継いで、山ん中のメチャクチャちつこい駅に着いたのが夜の8時。迎え来てもらつた車でそつから2時間！！やばつ、2時間だぞ2時間！！  
どんだけ山奥なんじやい。電車の乗り継ぎ迷つて、ギリギリ乗つたけど、あれ失敗してたら普通に最寄駅までも着かなかつたっぽい・・・。どんだけ田舎なんだよ。1時間に1本の電車つて本当に存在すんのね（笑）神様、貴重な体験をありがとう。マジどんだけ遠いんだつーの。  
けどそう考えると、出稼ぎつて大変なんだな。  
昔の人、マジリスペクト。偉いぞ昔の人！！

関口

所長、舞台下手後ろから登場する。  
寮母、舞台上手後ろから登場する。

関口、舞台中央までいき、所長、寮母と対峙する。

ここでは関口が実際にやり取りする回想シーンを、日記を読みながら幹也が眺める。  
場面は関口が初めてこの部屋に連れてこられたシーンに。（幹也が部屋でくつろぐ前に受けた説明）

S E (蛍光灯の紐を引く音)

L (関口の日記)

所長が部屋の蛍光灯の紐を引くと、部屋の明かりがつく。

所長さんが基本的に関口の前に立ちながら、説明を始める。

寮母さんはやや控えめに後ろに立ち、関口に優しい眼差しを向けてくれている。

部屋の使い方の説明に関しては寮母さんから、実際の仕事に関しては所長さんから説明がある。

所長さんは使い込まれた作業着を着ているが、綺麗に洗われており、日頃から身嗜みには気を付けている様子。人柄も良さそうで、とても気さくそうな雰囲気である。

こんがりと焼けた腕や顔がいかにも一次産業従事者を感じさせ、裏表のなさそうな明るさを感じる。

寮母さんはとても優しさで、面倒見がいい雰囲気。余計なことは言わず、控えめではあるが、常に気を掛けてくれ、そんな優しさを感じる。

部屋の雰囲気に関しては同じ部屋なので、前述（6頁）の通りである。

関口、所長から建物の説明を受ける。

ここが今日から泊まつてもらう部屋になるから。そして、こちらが寮母の中村さん。

あ、こんばんは。よろしくお願ひします。

お疲れ様、遠かっただしょ。部屋にある備え付けのものは好きなように使つてかまわないからね。

あと、お風呂は1階と離れにあつて、離れば露天風呂だから。

露天風呂ですか！？

空いてたらいつでも好きな時にどうぞ。

あ、はい。それで、仕事のことなんだけどね。

あ、はい。急遽来もらつたけど、いきなり明日から働いてもらつていいかな？

本當に申し訳ない。

全然大丈夫です。

この前までのバイトの子たちがまとめて早めに帰つてしまつて、人手が足りなくなつちゃつてね。本当に応募してくれて助かつたよ。詳しい話は明日また現場の方でするけど、仕事以外の時間は自由だし、これまで来てくれた子達も大体同じくらいの年の子ばかりだつたから、すぐに慣れると思うよ。まあ、のんびり頑張つて。

了解です。

何もない所で、若い人にはつまんないかもしれないけどね。空気はおいしくていいところだから。きちんと3食付くし、割のいいバイトだとは思うんだ。中村さんの料理本当においしいから。

バイト全然出来てなかつたんでホント良かつたつす。

毎日頑張つて作るからね。

ありがとうございます。

何か困つたことがあつたら中村さんに聞いて。じゃ、明日からよろしくね。

何かあつたら、管理人室にいるから。今日はゆっくり休んでね。はい、これ部屋の鍵。

あ、了解です。

所長、寮母、舞台上手へ退場する。

L (関口の日記)

関口

なにこ。リゾートバイト初めて來たけど、こんな待遇いいの？てつきり大部屋だと思つてたのに、ちゃんと個室だし。なにより離れに露天風呂あんのかよ！やばくね（笑）

それにこの辺、田舎でなんにもないから、星とかキレイそ。満天の星を眺めながらの露天とかマジやばくね？くうくう、移動疲れだし、寝るか。（蛍光灯の紐を引っ張る）

『マジやばくね？くうくう、移動疲れだし、寝るか。（重ね）』（日記を閉じる）

幹也

S E (蛍光灯の紐を引く音)  
L (幹也の部屋)

幹也 関口が部屋の蛍光灯の紐を引くと、照明が切り替わる。  
幹也、舞台上手へ退場（日記の閉じるのに合わせて）する。

幹也 前にこの部屋使つてた人の忘れものだろうな。この人も東京からかあ。

みんなタウンワークとかチエックしてんだな。リゾートバイト楽だつていうから来てみたけど、どうなんだろ、仕事辛いのかなあ？ 続きに書いてあるっぽいな、どーしょ。あく見てえ。

見ちやう？ 見ちやいます？ いつちやいます？ ついに犯罪犯しちやいます？

でももうちよつと見ちやつたしなあ・・・。今更か（笑）

ああ気になるけど、見た、いけど、見たくない気もする。見たら負けな気がする。

でも、ああ、気になる。続き。よし、じゃあこうしよう。終わつた日の日記は読んでよし。

初日終わつたら初日の分、2日目終わつたら2日目の分は読んでもよし。

よし、そうしよう。そうだよそれがいいよ。そうと決まれば、よっしゃ、移動疲れだし。寝る。

S E（蛍光灯の紐を引く音）  
L（暗転）

幹也が部屋の蛍光灯の紐を引くと、部屋の明かり消える。

3場 食堂～工場（2日目朝）

M E（ちゅんちゅん、鳥のさえずり）  
S E（コケコッコー）

暗転の中、寮母の声がする。

寮母 ご飯よう。  
幹也 はーい。

L（食堂）

板付きで幹也と寮母。

照明が入つてくる。

場所は食堂で、朝ご飯の支度が整つている。

長机の両側に椅子が並んでいるが、お膳が出ているのは幹也だけで、現在、この寮には幹也しかいないようである。

必然的にバイトも幹也だけだと思われる。

目の前に並んだ食事はわかりやすく一汁三菜。どれも寮母さんの手作りのようで美味しいぞ。

幹也、朝ご飯を食べ始める。

寮母さんは幹也の様子をみながら、水を汲んでくれたり気遣つてくれ、幹也の不安さを拭うように話し掛けてくれる。

いただきます。

幹也 いよいよ、初仕事だね。すぐ慣れるとは思うけど、どう？ 緊張してる？  
寮母 はい、そうですね。

幹也 そうよね。あ、食べ物は何が好き？  
ええと、そうですねえ・・・

幹也 何か嫌いなものはある？  
寮母 いや、特にないです。

幹也 そう。じやあうんと美味しいもの作つて待つてから頑張つておいで。  
寮母 はい、ありがとうございます。頑張ります。

幹也、食事を食べ終わると工場へ移動する。  
寮母、食堂の片付けをしつつ、退場する。

L（工場前）  
M E（朝の音）

幹也、食堂を食べ終ると工場へ移動する。

寮母、食堂の片付けをしつつ、退場する。

M E（朝の音）

幹也、荷物を運ぶ仕事のようにB.B.を移動させて、工場の入り口（縦2段）に配置する。

場所は工場前に切り替わる。

幹也（スマホでSNSにポストしながら）リゾートバイト初日

鈴木くん、携帯しまつて！」

幹也  
あ、すみません。

所長  
じやあ、仕事の内容を説明します。今日からこの建物の中で働いてもらいますが、ここでの募集は

タウンワーク見たのかな? はい。

所長 て仕事なんだけと募集は書いてあるがよしはここで育てる家畜への餌やりになります  
朝・昼・夕の一甲3回。決まつた時間に餌をやつてもらうと。まあ簡単と言うとそれだけです。

幹也  
え、それだけですか？

所長 そう、それだけなの。まあそれだけなんだけど、本当に簡単な作業なんだけど、餌の袋が多少重いから、それが最初はきついかな。あとは作業中は必ず手袋着用、作業の前に確實

アルコールで消毒ね。消毒液は入り口とか餌代の脇とか必要な場所にはきちんと置いてあるよ。

忘れないでね。ちなんに重いってどれくらいですか？あんまり体力には自信ないんですけど…

所長 体力自信ない？そつかあ。まあでもね、大体いつもバイトの子達は2、3日で慣れてるから

大丈夫だと思うよ。そんなに筋肉隆々の子達ばかりでもなかつたし。  
なんだかんだで、こういうのは慣れだから。大丈夫よ。

あと、もう一個注意点なんだけど。うちの動物、かなりデリケートで光に弱いから、二の建物の中に入つたら光は厳禁。十つも忘れて鷹等といつて入つたらやう子が

この建物の中は刀の光は厳禁され、かゝり忘れて持つて刀をせしむ手がたまにいるんだけど、一回それで大量死滅させちゃったことがあつて、今は電子機器類の持ち込みも禁止になつてゐるから。くわばらふ、そこはきらんと争つて、ハジキ

今は電子機器類の持せ込みも禁止はなへでをから  
ぐれぐれも そこはまぢんとやへくたまい  
何を飼つてゐるんですか？

所長 氣になるよれ。あんまりはつきりは言わないんだけど、光は弱い生物なんだって思ってて。この研究が実用化されたら、うちの専売特許になるから。その時までは秘密でお願いします。

SNS投稿も禁止だからね  
幹也 あ、はい。

所長 だから 工場の中は真っ暗です。仕事中もれ  
幹也 え? ジヤあどうやつて餌やるんですか?

所長まあ眞で暗くてゆつても薄暗い感じなんだけどね。けれどまあ結局は慣れにな  
慣れ・・・

**所長** 大丈夫大丈夫。本当にみんな最初は同じような不安な顔して始めるんだから、じゃあ、やってみよつか。はい、まずは手袋して。

所長、幹也に使い捨てのゴム手袋を渡し、自分も手袋をする。幹也、所長に渡された手袋をする。

所長 そしたら次は消毒。

2人、消毒をする。

幹也 所長 じゃあ、それ持つて。はい。

幹也は所長は言われた大きな袋を持ち、所長と一緒に建物（工場）の入口に向かう。工場の扉は、鉄工場などにあるような二重扉で引き戸タイプの鉄扉になつており、両手を使って

しつかり開けないと簡単に開かない扉である。今日は所長が一緒だったため、所長が開けてくれたが、一人の作業の場合はいちいち荷物を置く必要があるらしかった。

所長 幹也 はい。 扉は二重になつてゐるから。ちゃんと一つずつ開け閉めするんだよ。

光が入らないように、扉は一つずつ開けなければならないようで、一人の作業のときには荷物をその都度その都度何度も下す必要があることに、幹也はめんどくさを感じながら工場の中へ入っていった。

L  
（工場の中）  
2人は工場の中へ移動する。  
二湯の口は、説明がうつこ通り、  
音

工場の中は、説明があつた通り、暗い。  
目が慣れてくれば、多少はぼんやり見えるかもしれないが、慣れたとしてもはつきりとは見えない

たろうと感じられる。この暗さの中で本当に作業が出来るのか不安になるが、所長は慣れた雰囲気で作業の説明を続ける。

所長幹也  
所長幹也  
はい。  
じやあ餌の袋はその辺に置いて。  
はい。  
そしたら、またここで手指消毒。  
はい。

2人、手指を消毒する。  
幹也は、暗さの中、かなり手探りだが、所長は慣れた様子。

所長 そしたら、まずこうやって袋の口開けて。開けたら、中にほら餌が入ってるから。

所長、大きな袋の口を慣れた手つりで開けると、中から餌を取り出して餌のやり方を指導する。手前にいる動物と、奥にいる動物それぞれに行き渡るように餌を与える。

所長　この餌をこうやって、餌の袋からこつちの手前の餌台へ置いてあげる。  
(意外と単純作業。左から右に送るだけのような) こうやって手前は置いてあげる。  
で、奥にもいるから、奥の方の動物たちには下からこうやって(床に転がす) 食え食え～って  
転がしてあげて。じゃあ、やってみて。

幹也、言われたように餌をやつてみるが、暗さに目が慣れていない上、作業にも慣れていないので餌を落としたり、餌の袋に躊躇したりと悪戦苦闘する。所長はバイトの子が最初はいつも同じように悪戦苦闘することをわかっているので、いつものこととニコニコしながら見守っている。

手前には、  
置く。

違う違う違う。  
手前と奥はやり方が違うから、一つちやにしないで。  
え？あ、  
はい。

奥には転がす。  
わかつた？

やつてみて。手前は、

うーん、違うな。

所長

置くのと転がすのは違うからね！ まあ徐々に覚えてね。はい、続けて。  
こうですか？（左から右に送るだけのようだ）  
うん、ちょっと硬いなあ。もつと楽にシンプルに。

所長、合図する。  
M E (燃えよドラゴン)

所長 考えるな、感じろ。

しばらく音に合わせてやつてみる。

こうですか？

そう。

こう。

そうそう。

こう？

上手い上手い。その調子。

あと、奥の方にもいるからそういうのはこうやって（ボーリングのように転がす）食べ食べ～って。  
食え食え～（ボーリングのように餅を転がす）

幹也

所長、舞台上演へ退場する。

幹也は疲れた体でとぼとぼと宿舎（舞台の中央）へ移動する。

所長、幹也を促して工場を出る。

工場から出るときも、二重扉に気を付けながら、一つずつ開け閉めしながら外へ出る。  
真っ暗な工場内で作業をしていたため、外の光がかなり眩しく感じられる。

M E (夕方の音)

L (工場前)

幹也 眩し。

所長、手袋を外し、幹也の手袋も預かり、ゴミ入れに捨てたりしながら。

所長 眩しいよね。はい、お疲れ様でした。どう？慣れない仕事は疲れたでしょ？

幹也 そうですね。全然上手くいかなかつたです。

所長 大丈夫大丈夫。みんなそなだから。

幹也 はい。

所長 全然上手くやつてた方だよ。

幹也 そうなんですか。

所長 まあ今日は露天風呂でも入つて、しつかり疲れとつてもらつて。

幹也 ゆっくり休んだら、また明日頑張ろう。

所長 明日からは基本鈴木君にやつてもらうことになるからね。

幹也 大丈夫ですかね？

所長 はい・・・。大丈夫だつて。あ、でも手指消毒とか注意点は必ず忘れずにね。

幹也 生き物相手だから、そこは忘れずに。

所長 わかりました。

幹也 まあすぐに慣れるから。ファイトファイト。じゃ、お疲れ様。

所長 お疲れ様です。

## 4場 宿舎 部屋の中 （2日目夕方）

S E（蛍光灯を引く音）  
L（幹也の部屋）

幹也が部屋の蛍光灯の紐を引くと、照明が切り替わって、部屋の明かりになる。

幹也 ふう、初日終了。腕パンパン・・・。慣れる慣れるつていうけど、めちゃくちゃ

しんどいじやないかあ・・・。大丈夫大丈夫つて、こんなん本当に慣れんのかよ・・・。

幹也、置いてあつた日記を開く。

日記が開くのに合わせて、関口が舞台上手から登場する。

幹也が舞台上手側前で喋っているのを、幹也是日記を読みながら眺めている。

幹也は関口（日記）に対して、たまにつっこむ。

L（関口の日記）

関口 初日終了。結論から言うと、超当たりなバイト。所長さんもめっちゃいい人だし、コンビニで950円もらつてレジ打つてるとか、100倍マシ。

幹也 あれで当たりなんだ。  
幹也 飼つてるものは商品化するまで言えないらしいんだけど、光に弱いデリケートなやつらしい。

幹也 光も無理つてどんだけデリケートなんだよっ！オレか？笑  
幹也 薄々気づいてたけど・・・。こいつ割と陽キヤ？はあ陽キヤかあ。陽キヤもマメに日記とか書くんだな・・・。

幹也 飼つてるトコはパツと見はただの工場だから、本当こんなトコで飼育してんのかよって思つたけど、中では結構な数、飼育してるらしい。大きくなつたら出荷するみたいだけど、俺らはしばらく餌やりだけやつてればいいみたい。だから、今のところ、俺の仕事はと言うと、一日3回、決まった時間に工場行つて餌やるだけ。餌がちょっと重いんだけど、ドッグフードの大きい袋みたいなのを1回に30袋運び込んで、それの封を切つて餌台に入れるだけ。（マイム）超単純作業（笑）まー見事にいきなり筋肉痛になつたけど・・・。慣れたらちよー楽だと思う。多分、1週間後には名人と呼ばれるね。（マイム）この仕事、神だ。最高すぎる。まあ、しいていうなら光入つてこないから、暗くてなんもみえないからやりづらい・・・。ほぼ手探り（笑）お陰で2回ほど袋をぶちまけちやつた（笑）オレもやつた（笑）

幹也 みんな最初はそんなもんらしいし、まあそのうち慣れると思うけど。さあて。

袖から寮母の声がする。

幹也 ご飯よう。

寮母 はうい。

幹也 わあ。

幹也、日記を閉じる。それに合わせて関口退場する。

幹也は日記を置きに立ち上がる。場面が食堂に切り替わる。

幹也が日記を置くと、照明が切り替わり、場面が食堂に切り替わる。

L（食堂）

寮母、入つてきて幹也に座るように促す。

寮母は幹也の前に晩御飯を並べていく。

幹也 朝好きな物言つてくれなかつたじやない？何が好きだかわからなかつたから  
寮母 ハンバーグにしてみたんだけど。  
幹也 大好きです。  
幹也 ホント？良かつた♪どんどん食べて♪

幹也　はい。いただきます。

幹也が食べ始める。

久し振りの重労働でご飯がとても美味しく感じられる。

寮母は前に座つて、美味しそうに食べる幹也を見ている。

何気ない会話や、バイトでの話をしながら、勞うようにしている。

また、周りに娯楽もなく、快適に、ストレスのかからない環境を整えてあげることを心掛けている。

今回もいつものように良い環境を整えてあげたいと考えている。

今回は幹也一人のため、なるべく幹也のリクエストなどを聴きながら、

食事のメニューや宿舎での環境を考えていきたいと思っている。

寮母　今日一日疲れたでしょ？初日の感想は？どうだった？

幹也　思つてたより、重労働でした。餌よりもやっぱ、暗くて上手く出来なくて。難しかったです。

寮母　そうねえ。でも、みんな初日はそう言つてるから（笑）ホントそんな顔して（笑）

幹也　そうなんですか？

幹也　そうよお。だけど、みんなすぐに慣れちゃつて。何日かしたらもう自慢ばっかり（笑）

「おばさん、今日最速出したよ」って。若い人つて本当に飲み込みが早いから。

幹也　だからそんなに心配しなくても大丈夫よ。のんびり頑張つて。

幹也　はい。

幹也　食べたら、露天風呂行つておいで。ゆっくりするといいわ。

幹也、食べ終わる。

幹也　御馳走様でした。

寮母　はい、お粗末様でした。

幹也、寮母に片付けをお願いして、露天風呂にいくことにする。

幹也、舞台下手へ退場する。

寮母、料理を片付けて退場する。

## 5場　露天風呂　（2日日夜）

M E（露天風呂）  
L（露天風呂）

照明が切り替わる。

関口、舞台上手から登場する。

幹也、舞台下手から登場する。

寮の離れにある露天風呂。施設は人里離れた山の中、周りには明るい建物など何もない。

満天の星空の下、こじんまりとした、しかしとても開放的な露天風呂である。

こじんまりとしたサイズ感が逆にちょうど良い。

音も人工的な音は何もなく、ただ自然に包まれている。

この環境が心を開かせるのか、とても素直な気持ちになれる気がする。

誰もいない、この静かな露天風呂が2人にとっての癒しの場であり、自分に正直になれる場所である。

露天風呂は2人の素直な気持ちを吐露させる。

2人は同時に存在している存在ではないが、露天風呂に並んで座り、

同時に存在しているわけではないが、

互いの独り言がやがて会話をしているようなやり取りになつていく。



(5日目)

SE (コケコツコー)

起きる (移動)

働く (移動)

食べる (移動)

寝る

(6日目)

SE (コケコツコー)

起きる (移動)

関口・幹也、淡淡と働いている。

所長、舞台上手から登場 (二重扉をきちんと使って工場に入つてくる) する。

所長 どう? もうずいぶん慣れたでしょ?

2人 (手を止めて) そうですね、大分慣れました。

所長 ああ、ごめんごめん続けて。

2人 あ、はい。

所長 いやあ、本当に来てくれて助かったよ。しばらく続けられるんでしょ?

2人 そうですね、出来れば1ヶ月くらいは。

所長 実はさ、次に頼んでる子達がちょっと日程ズレ込みそうでね・・・。仕事も丁寧だし、言つたことをきちんとやつてくれるから本当に助かる。出来ればもつと長くいて欲しいけど。まあでも1ヶ月でも本当に助かるから。本当にありがとうございます。じゃあ、頑張つて。

2人 はい。

所長、舞台上手奥へ退場 (二重扉をきちんと使って工場から出ていく) する。  
2人しばらく作業をしたのち、工場から出て、宿舎へ帰る。

照明が切り替わって、食堂になる。

L (食堂)

2人、別れる。

幹也は食堂に移動、関口は舞台下手前へ移動 (関口は日記を書く) する。

寮母、舞台上手前から登場し、座つた幹也に晩御飯を並べていく。

はい、今日もお疲れ様。 (ご飯をよそう)

幹也 疲れたよう。

寮母 どう? 仕事は慣れた?

幹也 うん、なんとか。

所長、舞台上手から登場し、幹也の隣に座る。

所長 たまには、一緒に食べよつかな。いい?

幹也 え? あ、はい。

所長 中村さん、今日オレここで食べるね。

寮母 はいはい、今準備しますね。

幹也 ごめんね。

寮母 いえいえ。

寮母、所長の晩御飯も準備を始める。

所長 どう? 何か困ったこととかある?

幹也 いえ、大丈夫です。

所長 そつかそつか。もう就活は進んでるんだっけ?  
幹也 うーん、まあ。  
所長 なんだか怪しいなあ (笑)

何するの？

まだはつきりと決まってはなくて。  
何かやりたいこととかないの？

なんとなくはあるんですけどね。  
ダメだよなんとなくじや。自分の将来なんだからしつかり考えなきや。

まあ、そんなんですよね。（水を取りに立つ（関口と入れ替わる））

寮母 幹也 所長 幹也

幹也

幹也と関口、入れ替わる。

幹也是関口が書いていた日記を読む。

寮母

所長

幹口

寮母

幹口

まあまあ、所長さんも落ち着いて。

関口くんは関口くんで考えることがあるんですから。ねつ（関口に）  
あ、ごめんごめん。まあそだよね。オレがこんなこと言わなくとも考えてるか。

ごめん口うるさいこと言つたね。許してちょんまげ（笑）

いえ、大丈夫です。でも本当に考えなきやすよね。

露天もう空いてるから、食べ終わつたら行つておいで。

ありがとおばさん。じやあ行つてこよつかな。ご馳走様。

幹也、日記を閉じる。それに合わせて関口は舞台上手へ退場する。

幹也、日記を置き、舞台下手へ退場する。

所長、退場する。

## 7場 露天風呂（バイト6日日夜）

M E（露天風呂）

L（露天風呂）

照明が切り替わり、露天風呂になる。

関口、舞台上手から登場する。

露天風呂に入る。

関口

もはや仕事には慣れだ。マジ最近の俺は名人を超えて機械だわ（笑）あまりにも単純作業過ぎて、余計なことばつか考へてる。・・・やりたいことなんもなくて、とりあえず大学入つて、上京してきたけど、やっぱ都会の生活に憧れてただけなのかなあ。

歩くのも、喋るもの何もかも、みんな早くて、色んなものが溢れてて、何でも選びたい放題なんだけど、自分で必要なもの選んだり、自分でほしいもの選んだりしてつもりでいるだけで、

本当に自分で選んでいるのかはよくわかんない。

今まで選んできたものは、結局まわりに流されて選んだだけだつたんじやないかな。これが自分で選んだ人生だったのかなあ。こんなことがやりたかったのかな。

幹也、台詞の途中で舞台下手から登場する。

露天風呂に入る。

2人は同時に存在するわけではないが、互いの独り言がやがて会話のやり取りの様になっていく。

幹也

やりたいことってなんなんだろ？なんの為に僕は存在してるんだろ？生まれてきたことはみんな意味があるっていうけど、僕は何をするために生まれてきたんだろ？ただなんとなく生きてるけど、僕が生きてる意味ってなんなんだろ？（ここから2人交互に歌う）何のために生まれて、何をして生きるのか。答えられないなんて、そんなのは嫌だ。

幹也 関口 幹也 関口 幹也

やりたいことってなんなんだろ？なんの為に僕は存在してるんだろ？生まれてきたことはみんな意味があるっていうけど、僕は何をするために生まれてきたんだろ？ただなんとなく生きてるけど、僕が生きてる意味ってなんなんだろ？（ここから2人交互に歌う）何のために生まれて、何をして生きるのか。答えられないなんて、そんなのは嫌だ。

関口 答えられる奴なんているのかな？

幹也 よくわかんない。けど別に思いつめてるわけでもないし。

関口 こんな柄じやないのに、多分、露天が気持ちよすぎるせいだ（笑）違う違う。今の俺はこんなキララじやねえ。お疲れでーす。

幹也 答えが出ないこと考えたつて仕方ないよね。なんも考えないでここまで来たんだし。

幹也 僕はひたすら機械にでもなんでもなってやる（笑）とはいえ晴らしに♪

幹也 行っちゃう？

幹也 ようし、待つてろ動物たちよ♪乞うご期待。

関口、舞台下手へ退場する。

幹也 やっぱそうなるよね。

幹也、舞台上手へ退場する。

## 8場 宿舎外 （バイト6日目夜）

M E (夜の音)

L (宿舎外)

照明が切り替わって、宿舎外になる。

寮から工場への道には街灯など一つもなく、暗がりが広がっている。

幹也、舞台下手から登場、片手にはスマホを持っている。  
仕事にも慣れてきた幹也是、段々と余裕が生まれ始め、余計なことを考えるような時間が出来てしまつた。折角、現実から逃れられていたのに、余裕が出来たことで、また現実に直面し始めてしまつた。そして露天風呂はそんな自分をストレートにダイレクトに感じさせた。

モヤモヤした気分を晴らすため、ほんの軽いノリで、ダメなことはわかつていながらも、工場に動物の写真を撮りに向かつている。

寮から工場への道は街灯など一つもないため、月明かりを頼りに歩くしかない。

幹也の手に持つたスマホからは画面の灯りが漏れていて、

暗がりの中、スマホの画面がぼんやりと明るい。  
幹也、周りを確認しながら舞台中央へ移動する。

所長、舞台下手から登場、舞台中央へ移動する。

幹也 あつ、（スマホを隠す。所長を確認してから）こんばんは所長さん。ちょっと迷つてしまつて。

所長 暗いから気をつけなさいよ。しようがない、連れてつたげるよ。

幹也 え？ 悪いからいいですよ。

所長 いいからいいから。さあ、こつちこつち。

幹也 はい・・・。

幹也 もう、本当におつちよこちよいなんだからあ。心配だよ・・・。

幹也、言い訳をする自分がやろうとしていたことに後ろめたさもあり、上手く会話にならなかつた。正当な理由があるわけでもないので、所長に逆らえるはずもなく、所長に連れられていく。

2人、舞台下手へ退場する。

幹口、舞台上手から登場する。

幹口 外に出てみたんだけど、いきなり所長さんに見つかっただけだんだんだんだんだんだんだんだ。

幹也、舞台下手から日記を持って登場し、日記を読みながら喋つてゐる幹口を見ている。

関口 そつち露天じやないよって。しくつたう。次こそ絶対写真撮つてやる。

関口、舞台上手へ退場する。

幹也 やつぱそつちも無理だつたんだ。

幹也、舞台下手へ退場する。

暗転する。

L (暗転)

## 9場 工場 (バイト7日目朝(夕方))

L (朝(夕方))

照明が入つてくる。

関口・幹也、舞台上下から登場し、工場へ移動する。

2人は悶々とした気持ちを抱えつつ、変わらない毎日を繰り返している。

そんな生活にそろそろ飽きてきているし、余裕のある今は余計なことしか浮かばない。

2人はいつもと同じ作業を繰り返している。

照明と音と行動で時間経過を見せる。

関口 バイト7日目終了。さて。

L (工場(夕方))

関口・幹也、仕事を終えて工場から外へ移動する。(きちんと二重扉を使用する)

L (夕方 工場外)

2人、工場から出ると外は夕暮れになつていて、いつもの光景で何も変わり映えはしない。これから宿舎に戻れば、晩御飯の用意があり、ご飯を食べたら露天風呂へ浸かり、そこでグダグダはどうにもならないことを考えたら、部屋に戻つて寝る。そしたら、また次の日がやつてきて、工場で働き、宿舎に戻り昼食を食べ、午後の仕事をこなしたら、また、今この場所と同じこの場所で、同じ景色を見ることになる。毎日が同じことの繰り返しで、正直嫌気が差してきている。

2人、悶々とした気持ちを抱えつつ、宿舎に帰ろうとする。

所長、舞台上手から登場し、2人に声を掛ける。

2人は同時には存在しないが、所長とのやり取りは1人を相手しているように進んでいく。

所長 どこ行くの?

幹也 え?宿舎に戻ろうかと。

所長 迷うといけないから送るよ。

大丈夫ですよ。

所長 ほら、行くよ。おつちよこちよいだから心配でしようがないよ。暗がりでケガとかしちゃつたら大変だしさ。

2人 はい・・・。

3人が移動し、宿舎に着くところで、寮母が舞台上手から登場する。

所長 じゃあ中村さんお願ひね。

所長、舞台下手へ退場する。

照明が食堂に切り替わる。

L (食堂)

寮母は2人を座らせ、いつものように食事の準備を始める。2人は同時に存在しないが、寮母とのやり取りは1人を相手しているように進んでいく。

2人は食事をしながら寮母と会話する。

寮母 幹也  
寮母 関口  
寮母 関口  
寮母 幹也  
寮母 お疲れ様です。

昨日迷つて、外、出歩いてたらしいじやない。この辺は夜になると真っ暗なんだから危ないわよ。  
露天に行く途中で迷つてしまつて。

危ないから、今日から露天風呂は禁止。

2人 え？

仕事終わつたら外はもう暗いでしょ？また迷つたら危ないから、これから毎日所長さんに  
送つてもうよう頼んだいたから。

なんで？

幹也 暗くて危ないんだから。帰つたら、外に出ちやダメよ。

寮母 大丈夫ですよ。

寮母 なに言つてゐるの、何かあつてからじや遅いんだから。わかつたら、ご飯食べて、ゆっくり休んで。

2人 はい・・・。

寮母、言い終わると話をするでもなく2人を残して舞台上手へ退場する。  
関口・幹也、寮母から突然露天風呂使用禁止を言い渡され、逆らうことも出来ず少し放心する。  
唯一の癒しの時間とも言えた露天風呂が禁止になれば、益々、することがなくなる。  
時間を使える場所もなくなり、益々時間を持て余してしまうことは明らかで、益々憂鬱な気持ちになる。

2人、軽く呆然としながら食事を食べる。

L (暗転)

## 10場 工場 (バイト8日目～11日目)

M E (ウイリアムテル)

2人は仕事に段々慣れてきて、動きがスムーズになつていく。  
作業が効率良くなつていく、仕事がどんどんこなしていくことに喜びを感じ、仕事に対して  
どんどん楽しさを感じていく。

2人の日常生活に、所長、寮母も適切なタイミングで、適度に関与し、日々の生活が  
刻々と進んでいくことを表す。

工場の照明がつく。

L (工場)

M E (変わらない日々)

関口・幹也、板付き(舞台中央)

照明はやがて夕方になつていき、夜になり、暗転(就寝)、朝の繰り返し。

照明の変化と音の変化によつて時間の経過を見せる。

L (工場→食堂→部屋→就寝→朝→の繰り返し)

2人は日々の繰り返しの生活を端的に表す。(照明と音と行動で時間経過を見せる)

こつそり外に出た次の日から、所長さんによつて常に行動が監視されているような気がする。

工場での仕事中に気付けば目が合うことが増えた。

工場から宿舎への行き帰りも所長さんの送迎が付くようになつた。

途中寄り道したり、遠回りしたりすることも出来ない。少し散歩することも出来ない。

完全に向ふと宿舎のみになつてしまつた。

自由を奪われた生活にどんどん息が詰まつていく。

(バイト8日目)

働く

食べる

(9日目)

S E (コケコツコ一)

働く

食べる

(10日目)

S E (コケコツコ一)

働く

食べる

(11日目) (照明で時間経過をみせる)

S E (コケコツコ一)

2人はマイム (日常生活) を続けながら独り言を言い始める。

関口 楽なバイトだし、おいしいとは思うけど、圈外だし、何もすることがない・・・。  
幹也 そもそも周りにはなんもないし、露天風呂くらいしか楽しみがなかつたのに、  
関口 それさえ、奪われた今となつては、  
幹也 どうやって時間潰すか、そればばかり考へてる。

M E (時計)

時計の秒針の音がはつきりと聞こえる。

時間の流れがとても遅く感じ、同じことをただ繰り返しているだけの生活に對して、  
生きている実感を見出せなくなり始めている。  
どうやつて時間を潰すのかばかり考へているが、時間があつという間に過ぎてしまふほどに  
熱中出来るものも見つからず、時間を持て余してゐる。  
余計なことばかり考へてしまふ。

関口 僕、昨日はひとりかくれんぼした。

幹也 オレはずつと数数えてた。

幹也 時間が足りないつてゆつてる人よく聞くけど、そんなに欲しいなら売つてあげたい。  
関口 時は金なりつていうし、ちょっと売れるだけでも楽に稼げんのに・・・。  
幹也 明日もどうせ同じことの繰り返しなんだろうな・・・。

2人、鬱々とした気持ちをどんどん膨らませながら、毎日の仕事だけはこなしていく。  
作業効率はピークから比べれば低いものの、一定水準で維持されている。  
暗転する。

L (暗転)

11場 (バイト12日夜)

工場の照明がつく。

L (工場)

関口・幹也、板付きで、作業をしている。  
2人は日々の繰り返しの生活を端的に表す。(照明と音と行動で時間経過を見せる)

もはや、鬱々とした感情は抑えられず、限界を感じている。  
作業も最初の頃のような丁寧さや効率的な作業ではなくなり、

毎回、ただこなすだけの作業になつてしまつてゐる。

餌やりをする中で感じたことも、ストレスとしてどんどん溜まつてきている。

この鬱々とした日常に何か変化を与えるため、一度は失敗した動物の写真撮影をリベンジすることにした。  
2人は働き終わった後、食堂で夕食を済ませると再び工場へ向かう。



幹也  
所長 言えねえくせに口答えしようとしてくんじやねえよ。自分の意思もねえくせに

すみません・  
何と考えずこ、言つれを二三こすぶ答えりや、ハんぞよ。もつかハ言つてやるな。

最初に言わなかつたつけ？うちで飼育してゐる動物はデリケートだつて！！

は？聞こえねえよ。

大きい声でしゃべれ、大きい声で。

辰貴

言いました。)  
言いました。)

言われました。

言われました。  
じゃあ、わかつてなんだよなあ？それとも、デリケートの意味がわからなかつたのか？

ぞかく、答えるつづてんぞろが！！

わかつてました・・・。

聞こえてなかつたのかテメエ。すぐ答えるつづつをろ!!

正座<sup>まくざ</sup>。はい。

聞えぬえのか。ゆとり世代は耳までゆとりなのか。

違います。口答えしてんじやねえよ。正座がつづつてんどうが

・幹也、少し弁解しようとも思うが、所長の勢いに押され逆ううことが出来ず正座する。

幹也 ぼ、 業は・・。

寮母、舞台上手から登場する。

2人は寮母に助けを求める、なんとか所長に弁解させてもらおうとするが、優しかった寮母の反応が徐々に変わっていき、寮母からも叱責を受ける。2人はどんどん追い詰められていく。

まあなにやつてるの？

所長 督母 あお中林さん  
どうしたの？こんな地べたに正座なんかしちやつて・・・。大丈夫？ちよつと所長さん  
やめ過ぎなんじやなハの？

幹也 母も 聞いてください、おばさん。

ちよつと息抜きがしたかっただけなんです。ちよつと外の空気が吸いたくて、フラつと出

寮母 関口 幹也 うん。  
別に動物に何かしようとしたわけでも、所長さんに迷惑をかけようとしたわけでもないんです。僕、最近ずっと悩んでて、それで息が詰まつてたっていうか、

それで、気付いたらフラつと外に出てただけなんです。  
わざと同じやないんです。

うん。

お願ひします。

おばさんからも、  
ん？ 私からも？ 今私からもって言つた？ 私から何するの？

え？だからおばさんからもオレがそんな迷惑をかけるつもりじやなかつたつて・

迷惑をかけるつもりじやなかつた？ え？ もう迷惑掛かつてるじやない。

そうですけど・

じやあなに、あなたが掛けた迷惑を、私が尻拭いしなきやいけないってこと？

そういうつもりじや・

なんで？

え？

なんで？

いえ、だから・

なんで、私があんたの尻拭いしなきやいけないのよ。

何？ 黙つて聞いてりや調子に乗りやがつてよ。

息が詰まるつてなに。あんなに環境整えてやつてんのに、まだ足りないの？ ん？

それとも、私が寮母じや息が詰まるつて言いたいの？ え？ そういうこと？

え、おばさん？

ちやんと3食食事も用意してやつただろ？

洗濯物だつて全部やつてやつてんじやん。

何が不満なの？ 好きな物すら言わねえくせに。

何の役にも立たないあんたは言われたこと黙つてやつてりやいいんだよ。

言われたことやつてりや、三飯食べさせてもらえんじやん。それでいいじやん。

大体、あんたに何かできるこことでもあんの？ ないんだろう？

そんなあんたにこつちは文句も言わずに、飯作つてやつてんだろう？

掃除してやつてんだろう？

なんで、おばさん、どうしちやつたんすか？

何？ あんた寮母だと思つてなめてんでしょ。

おばさん？

おい。おばさんおばさん、うるせえな。私にも名前があんのよ。

あんたにおばさん呼ばわりされる筋合はないんだよ。

大体さあ、お前が撒いた種なんだろ？

言つたよなあ？

そうだけど・

そうだけど？ なんでお前はタメ口なんだよ。こつちは年上だろうが。

すみません。だけど・

おばさんじやねえんだよ。あ？ で、だけど何なんだよ。言つただろ？ 外に出るなつて。

言われたこと破つて、出歩いて、見つかつたら、助けてくださいつて？

おいおい調子良過ぎるだろ。

そんな甘い話あるかよ。それともなんだ？

寮母なんて自分の言うことは何でも聞くと思つてんのか？

だから、寮母に言われたことは守らなくていいつてか。

なめてんじやねえぞ。人を馬鹿にするのもいい加減にしろ、寮母だつて思つてなめやがつて。

そんな・・・。

あんたさあ、約束は守れつて、習わなかつたんだね。

子供の頃に親から言われなかつたか？ 約束は守れつて。

寮母  
幹也

うん。  
それで、気付いたらフラつと外に出てただけなんです。

「そうか、言われなかつたんだ。お前の親はどんでもない親だな。自分の子に、そんな当たり前のことも教えられなかつたんだからな。どうしようもない奴が存在するんだ。だからこんな、どうしようもない奴が存在するんだ。」

なんの役にも立たないくせに、人に迷惑はかける、約束も守れない。

何の為に存在してんの？なんの役にも立たないんだから、何も考へないで

言われたことやつてりやいいのよ。それすら出来ないなら、生まれてこなきやよかつたじやん。何も役に立たないあんたは家畜以下。

何、言ひたいことがある  
ぼ、僕は・（お、俺は・）

僕は何だよ？

早く言えよ！！。

い  
い  
か、

言われたばっかだろ、何の役にもたたねえテメエは家畜以下なんだよ。余計なこと考えないで言われたことやつてりやいいんだ。

言われたことに『はいはい』答えりやいいんだよ。

いいか、お前はもう『はい』だけ答える。ああ、まあいいや、『いいえ』も言わせてやる。

テメエはうちの動物がテリケートたてわかつて  
様子を見こ來んぞな？ わざわざこんな夜中に

うらの物語が全部完結され、今度は二部作の責任を負ふ、しらべるがんばります。

•  
•  
•  
○

いえ。

貢はい。

い自分しゃ正しい半幽かできだいへてことだよだ。

・・・。 半断できなうて」とたよなあ?

そうだろうが！

じゃあ、お前はもう何も考えなくていい。全部オレが決めてやる。

はい。

はい。

心酔て人たゞて  
はい。と申せよ

自分で決めたことなんてないんだぞ？

じやあ、今までと大して変わらないじやないか。

人にはい)

寮母 ランキーだつたじやん。

2人 はい。

所長 家畜以下になんないようせいぜい役に立て。

所長・寮母、2人を残して舞台上下へ退場する。

関口・幹也、放心状態のまま取り残される。

頭の中をグルグルと色んな思いが回りはするが、はつきりとは考えられない。

暗転する。

L (暗転)

## 12場 工場 (バイト18日目～21日目)

L (工場)

工場の照明がつく。

関口・幹也、板付き。

2人は場所を移動せず、所長と寮母が2人に関与しに移動することで、場面を転換していく。

関口・幹也、働いているが無表情で、もはや、機械のように感じられるほど無機質。

何も考えず、ただ淡々と作業をこなしていく。

所長、舞台下手から登場（二重扉をきちんと使って工場に入ってくる）、声を掛ける。

所長 どう？順調？

2人 （働きながら返事をするが、無表情）はい。

所長 本当に来てくれて助かったよ。

2人 はい。

所長 ずっと、ここにいてくれないかなあ？

2人 はい。 所長助かるよ。こんなに頑張ってくれる子なんて中々いないからね。

2人 はい。

所長 2人はしばらく作業を続いている。

舞台下手へ退場する。  
寮母、舞台上手から登場する。

L (食堂)  
場面は食堂に切り替わる。

寮母は2人の前に食事を準備する。

寮母 はい、今日もお疲れ様（ご飯をよそう）

2人 はい。

寮母 どう？仕事は順調？

2人 はい。

寮母 明日からも頑張って。

2人 はい。

寮母、2人が食べている様子を暫く見たのち、2人を残して舞台上手へ退場する。  
2人は無表情でご飯を食べている。  
フェイドで暗転する。

L (暗転)

(19日目)

S E (コケコツコー (鈍い))

L (無機質な明るさ (時間経過を表す))

照明がつく。

M E (無機質な透明感)

関口・幹也、板付き。

2人の動作と照明で時間経過を表す。

2人は働きながら、独り言を呴き始める。

幹也 每日決められた時間に餌を与えている。

関口 毎日毎日、同じ時間に餌をやるだけ。

幹也 餌をやつてゐる時は、機械にでもなつたような気分になる。

幹也 生きてる意味とか考えてたけど、本当に何の為に生きてるんだろうって思う。

幹也 答えが出ないことを考へてるくらいならいつそ機械になつたほうがまだ気楽なんだろうな。

幹也 なにも考えなくていいし。

幹也 機械になれない以上、生きてる間は、こうしてずっと考えてしまうのだろうか、

幹也 何も考えなくて済むにはどうしたらいのだろうか。

幹也 2人、しばらく働いたのち、工場から食堂へ移動する。

2人、食事を食べている。

フェイドで暗転する。

L (暗転)

(20日目)

S E (コケコツコ一 (鈍い))

L (無機質な明るさ (時間経過を表す))

照明がつく。

幹也 関口・幹也、板付き。

2人の動作と照明で時間経過を表す。

2人、働いている。

M E (無機質な透明感)

2人は働きながら独り言を呴き始める。

幹也 関口 だんだんとわからなくなってきた。

幹也 関口 自分が聞いている音が本当に聞こえている音なのか。

幹也 関口 自分が見ている景色が本当に見えてる景色なのか。

幹也 関口 生きてる実感はいつからかすでにない。

幹也 関口 息はしている。

幹也 関口 鼓動は聞こえる。

2人、しばらく働いたあと、食堂に移動し、食事を食べている。

フェイドで暗転する。

L (暗転)

(21日目)

S E (コケコツコ一 (鈍い))

L (まばゆいほどの透明感、無機質 (時間経過を表す))

照明がつく。

幹也 関口・幹也、板付き。

2人の動作と照明で時間経過を表す。

2人、働いている。(関口は途中まで)

M E (無機質な透明感)

2人は働きながら、独り言を呴き始める。

自分が生きてるのかどうかわからなくなってきた。いや、そんなことすら考えていることがめんどくさい。

なにも考えなくて済むのなら。  
思考なんて必要ない。

所長さんの言うとおりだ。

思考なんて必要ない。  
今までの人生、自分で

思考なんて必要ない。  
自分は誰、二三、下し一二、二、一。

自分は誰かに生かされてきたんだ。  
思考なんて必要ない。

オレとここで銅つてる家畜とどれだけの差がある？

思ひたて必要ない  
与えられたもので生か

思考なんて必要ない。  
差なんてないじやないか。

思考なんて必要ない。

オレも家畜も大差ない。

オレも家畜も大差ないんだ。

思考なんて必要ない。

思考なんて必要ない。

何も考えず与えられているオレは、思考なんて必要ない。

飼いならされた家畜と同じなんだ。  
思考など不要ない。

思考なんて必要ない  
考えることをやめたお前は。

思考なんて必要ない。  
家督だ。

家畜た  
思考なんて必要ない。

さあ食えよ。  
(関口に餌を)

は持つていた餌を足元に転がして、関口に与える。

はしやがんで四つん這いになり、幹也が転がした足元の餌を食べ始める。峰つてくる。

声は2人を包み、2人の思考を導いていく。  
と声に身を委ね始めていく。

重ねて、関口は台詞を繰り返す。

考なんて必要ない。』  
（関口）思考なんて

（関口）思考なんて必要ない。  
（関口）思考より「必要」よ。

（関口）思考なんて必要ない。【思考なんてもう要らへん】

（関口）思ひません。思考なんて必要ない。  
（関口）思ひません。思考なんて必要ない。

（関口） 思考なんて必要ない。  
（関口） 思考なんて必要ない。  
（関口） 思考なんて必要ない。

考なんて必要ない。  
——  
（関口） 考なんて必要ない。  
（関口） 思考なんて必要ない。

思考なんて必要ない。

考えることをやめれば、僕は  
思考なんて必要ない。  
・  
・  
・  
○

同時に

関口 7月21日。

幹也 8月21日。

関口 オレは考えることを止めた……。

幹也 僕は考えることを・

関口、幹也の腕を何度も何度も舐める。

幹也是舐められた腕から関口を振り払い、何度も何度も殴りつける。

何度も殴りつける中で、家畜を殴りつけたときの感覚（舐められた時の）を思い出す。

いつか舐められて気持ち悪くて殴りつけた家畜（12日目）は日記の人物だつたのかもしれない。

幹也是感情を取り戻す。

幹也 う、うわあ。やめろ、舐めるな。やめろ、気持ち悪い。来るな、来んなよ。

工場のスピーカーから放送が入る。

声『さあ出荷だ。出てこい。』

工場の扉が開き、出口から光が射し込んでくる。光はちょうど道のように見える。  
L（やたら眩しい、出口へと続く道のよう）

関口、射し込んでくる光に導かれるように、光の方向へ自ら進んでいく。

関口、出荷される。（退場する）

幹也是我に返り、感情を取り戻したことで、はつきりと状況が理解できた。

しかし、恐怖、不安などから、足が動かない。

この場からなんとか逃げ出したいが、声の導きは強く、負けそうになりながらなんとか抗う。

幹也 え？いやだ、い、嫌だ。僕は行かない。僕はそっちへはいかない。ダメだ、力が入らない。

幹也 嫌だ、そっちへは行かない。行きたくない、行きたくない。僕は人間だ。家畜なんかじゃない。

僕のことを勝手に決めないでくれ。僕のことはほつといてくれ。僕にかまわないでくれ。

声『今更遅いんだよ、今まで流されてきたんだろう？』

幹也 いやだ、ダメだ。そっちへは行きたくない。行きたくないんだ。

声『これからもずっと流されていくんだろう？』

幹也 嫌だつてゆつてるだろ。いやだ、嫌だ。僕はそっちへは行きたくない。頼む、お願ひだ、お願いします。僕はそっちへは行きたくありません。僕はそっちへは行きたくありません。

声『なにも考えなくていいんだ。なにも怖がらなくていい。』

幹也 嫌だ、嫌だつて言つてるだろ。

声『こっちの世界には何も怖いことなんてないんだ。さあ、ほら。』

幹也 いやだ、行きたくない、やめる、行かない。僕はそっちへは行きたくない。嫌だ、行かない。

行きたくない、いつつてんだろ。嫌だ、嫌だ、やめる、僕はそっちへは行きたくない。やめろ、やめろ、嫌だつて言つてんだろ。行かないつて言つてるだろ。ふざけんな、勝手に決めんなよ。

勝手に決めんな、僕は家畜じやない。僕は行かないからな。僕は行かないからな。ふざけんな、ふざけんな、ふざけんな、ふざけんな。僕は家畜じやない。残念だつたな、

僕は行かないんだ、ざまあみろ。僕は自分の意志があるんだ。僕は自分の意志があるんだ。僕は自分で考えられるんだ。僕は、僕は考えることを止めない。あ~~~~~

幹也の叫びをきっかけとして、場面が切り替わり、冒頭のファミレスの場面に戻る。

L  
(ファミレス)

家族が出てくる。  
幹也、冒頭のファミレスの並びで座る。

幹也、立つたまま。

幹也、どうした？大丈夫か？

そんなに焦らなくてもいいのよ。

幹也（FAミレス）  
いいや。僕は決めた。自分で決断したんだ。もう迷わない。

兄ちゃんにもお父さんにもお母さんにも、誰にも決めさせない。

これは僕の人生なんだ。僕が決めなきやいけないんだ。

今まで自分で決断できなかつたのは、きつと、責任から逃げたからなんだ。

人に決めてもらえば、人のせいに出来るから。だから、自分で決断したくなかっただけなんだ。

でも、もう僕は逃げない。自分の決断には自分で責任を取る。僕は決めたんだ

僕は、僕はミラノ風ドリアにする！！

M S E  
(E D)  
母が呼び鈴を押し、ファミレスの呼び出し音が鳴る。

S E  
(呼び出し音)

家族が楽しそうに話している。

明るいまま幕が下りていく。